



十勝管内教育研究所連絡協議会  
**十勝教育研究所**  
Tokachi Education Research Institute

# 共同研究

2026.2.3

主任所員 山本 由佳  
所 員 佐藤 悠樹  
所 員 中村 俊太

[> 令和7年度の研究のページ](#)[> 研究紀要アーカイブ](#)[> 令和7年度共同研究 概要ページ](#)[> 令和7年度共同研究 詳細ページ](#)[> 令和7年度協力員研究 概要ページ](#)[> 令和7年度協力員研究 詳細ページ](#)

こちらから、本研究の資料のダウンロードが可能です。  
また、研究紀要も兼ねていますので、ぜひご一読ください。



とかち教育講演会のご案内

広報誌「十勝教育研究」351号を  
更新しました

# 次号 予告

特集  
教育現場のウェルビーイング  
エージェンシーの向上  
を目指して

特集（351号）「教育現場のウェルビーイング」



教育情報（351号）研修会報告



## TABLE OF CONTENTS

1. 研究主題
2. 研究の内容
3. 研究の組織・検証方法
4. 授業実践
5. 子どもへの取材や  
アンケート
6. 今年度の成果と課題

# 研究主題

01

## 研究主題

自ら学び続ける子どもを育む研究  
～単元デザインの工夫と学びの自己調整を通して～



## 研究仮説

単元計画において、教師が身に付けさせたい資質・能力を踏まえながら多様な価値観で学ぶことができる単元デザインを構築し、加えて、子どもも自身が学習計画（見通し）を立て、学習方法など授業での学びを自己決定し、振り返りを通して学びを自己調整していくことで、自ら学び続ける子どもを育むことができるだろう。

01

## 研究主題

自ら学び続ける子どもを育む研究  
～単元デザインの工夫と学びの自己調整を通して～



### 目指す子どもの姿

- 自ら学習計画を立てて学習に向かい、課題を解決する
- 「見方・考え方」を働きさせ、学習方法等を自己決定しながら学ぶ
- 自ら学習を振り返り、次の学習や単元での行動を調整する

# 研究の内容

## 単元デザインの工夫

- 単元の始めに子どもとゴールを共有し、見通しを立てたり振り返りをしたりしやすくする。
- 学習方法や交流機会など、子どもの多様な学び方に対応した学習環境を整備する。

## 単元デザインの工夫

### (I) 身に付けたい資質・能力に応じたゴールの設定

1  
教育目標



2  
教育評価



3  
学習経験と  
指導の計画

## 単元デザインの工夫

### (I) 身に付けたい資質・能力に応じたゴールの設定

学びをつなげる「振り返り」



「学習計画（見通し）」

今回の授業で  
身に付いた力

次に向けての  
改善点

02

## 研究の内容

### 単元デザインの工夫

(2) 子どもたちにどの程度学びを委ねるのか見える化する

# 研究の内容

子どもの主体性を図る自己調整度合	0～2	3～5	6～8	9～10
<b>学習課題</b>	ほぼ教師が決定している	子どもに選択肢から選ばせる	子どもが選択肢を作り、選ぶ	子どもが自分で決定する
<b>学習過程</b>	教師が意識して過程を回す	子どもが今、何をしているのかを意識している	過程の一部を子どもが回している	過程を全て子どもの意思決定により回している
<b>学習形態</b>	教師が誰と学ぶかを決める	教師が範囲を定めて、誰と学ぶか決める	過程の一部で、誰と学ぶか子どもが決める	子どもが全ての過程で誰と学ぶか決める

02

## 研究の内容

### 学びの自己調整

- 子ども自らが見通しを立て、行動し、振り返る  
学びのサイクルを意識して行うこと
- ゴールに向かうための学習方法を子ども自らが  
選択・決定すること

02

## 研究の内容

### 学びの自己調整

自己調整学習を学びのサイクルに生かす

動機付け

融合

見通し

メタ認知

学習方略

振り返り

行動

自ら学び続ける子ども

単元デザイン



資質・能力

Anticipation

学習計画  
(見通し)

Reflection

振り返り

学びの  
サイクル

授業の学び

Action

ICT

# 研究の組織 ・検証方法

# 研究の組織・検証方法

グループ	研究Ⅰ年次グループ		
学年・教科	中学校第2学年・社会科		
推進幹事	永山 凜（陸別町立陸別中学校）		
推進副幹事	土橋 真理（中札内村立中札内小学校）		
授業者	田村 陽和（大樹町立大樹中学校）		
共同研究員	戸川 結（音更町立緑南中学校）	窪 駿一（広尾町立広尾中学校）	
	加藤 心（士幌町立士幌町中央中学校）	遠藤 宏一（幕別町立札内中学校）	
	長谷川知英（上士幌町立上士幌小学校）	小山内美咲（池田町立池田中学校）	
	梅原 翔太（鹿追町立鹿追中学校）	小野 泰雅（豊頃町立豊頃小学校）	
	朝日 誠（新得町立屈足中学校）	佐藤 法士（浦幌町立浦幌中学校）	
	山内 優萌（清水町立清水中学校）	下前 滋史（本別町立勇足中学校）	
	渡邊 優美（芽室町立芽室西中学校）	岸山 知歩（足寄町立足寄小学校）	
	原田 憲未（更別村立上更別小学校）	木下ことみ（帯広市立帯広第五中学校）	
担当所員	山本 由佳	佐藤 悠樹	中村 俊太



十勝教育研究所  
主任所員 山本 由佳



十勝教育研究所  
所員 佐藤 悠樹



十勝教育研究所  
所員 中村 俊太



陸別町立陸別中学校  
推進幹事 永山 凜



中札内村立中札内小学校  
推進副幹事 土橋 真理



大樹町立大樹中学校  
授業者 田村 陽和

03

## 研究の組織・検証方法

単元デザインの工夫

学びの自己調整

- ・共同研究員による子どもの見取り  
(発言、つぶやき、行動等)
- ・ワークシートの内容等
- ・振り返りの分析
- ・事前、事後のアンケート調査

03

## 研究の組織・検証方法

- ・共同研究員による子どもの見取り  
(発言、つぶやき、行動等)
- ・ワークシートの内容等
- ・振り返りの分析
- ・事前、事後のアンケート調査



自ら学び続ける子ども

# 授業実践

# 授業実践

# 单元計画及び指導案

- ・学習指導要領の内容や  
目指す子どもの姿を単  
元計画と一体化
  - ・自己調整度合を挿入し  
授業者の意識を明確化
  - ・1次～3次と区別する  
ことで授業の流れをよ  
り明確化

## 単元の課題

### 【パフォーマンス課題】

あなたは地域おこし協力隊です。様々な地方に行き、地域を活性化させることが仕事です。あるとき、「今は各地方に移住する人が増えている時代です。そこで移住を考えている人のために、その地方に関わる情報提供をしてほしいです。」と依頼がきました。その依頼には続きがあり、「今回は九州地方か北海道地方のどちらかをお願いします。」と書かれていました。あなたはどちらの地方に就職し、情報発信を行いますか。自然環境（地形・気候）を中心として考えつつ、他の事象（産業など）とも関連付けて、それぞれの地方で想像されるメリット・デメリット両面を含むプレゼンをしましょう！

- ・自分たちを「地域おこし協力隊」と設定。
- ・情報発信をするために、どのようなメリットやデメリットがあるかをまとめ、情報提供を行う。

## 単元の課題

### ループリック

A	<p>【ヒント】</p> <p>自然環境（地形・気候）を中心とした考察の仕方を基にして、他の事象と関連させ、それに加えて地方の特色や課題等のメリット・デメリットも踏まえながら考察できる。そしてプレゼンテーションで表現できる。</p>
B	<p>パフォーマンス課題において、北海道地方もしくは九州地方の自然環境（地形・気候）を中心とした考察の仕方を基にして、他の事象（産業、観光、暮らしの工夫など）と関連付けて、多面的・多角的に考察し、プレゼンテーションで表現できる。</p>
C	<p>【Cへのサポート】</p> <p>教科書 p 258～265、p 186～193を読み、自然環境を中心として考察し、地方の地形や気候、観光、自然災害等の情報提供を行うことができる。</p>

- **B評価の文言には「自然環境（地形・気候）」と関連付けて多面的・多角的に考察を行うこと**を明記。

# 授業実践

次	1次				2次			3次		
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学習活動 (学習内容) 一斉/複線	九州地方について資料から基礎的な知識を身に付ける。 自然災害の実情や人々が行う自然災害への対策を理解する。	産業について自然環境と関連させながら特色を理解する。	持続可能な社会を実現するための取組についてまとめる。							
	<p style="text-align: center;"><b>【パフォーマンス課題】</b></p> <p>あなたは地域おこし協力隊です。様々な地方に行き、地域を活性化させることが仕事です。あるとき、「今は各地方に移住する人が増えている時代です。そこで移住を考えている人のために、その地方に関する情報提供をしてほしいです。」と依頼が来ました。その依頼には続きがあり、「今回は九州地方か北海道地方のどちらかをお願いします。」と書かれていました。あなたはどちらの地方に就職し、情報発信を行いますか。自然環境（地形・気候）を中心として考えつつ、他の事象（産業など）とも関連付けて、それぞれの地方で想像されるメリット・デメリット両面を含むプレゼンテーションをしましょう！</p>									
子どもの主体性を図る自己調整度合 (課題: 課程: 形態)	1 : 5 : 2				3 : 8 : 8			3 : 8 : 5		
子どもの姿	1 九州地方の地形や気候を地形図、雨温図などの資料から読み取る。  2 どのような自然災害が起こっていて、自然災害への対策はどうにされているのかを調べる。	地形・気候 産業 観光	・平野 ・温暖 ・酪農 ・二毛作 ・温泉 ・地域のよさだけでなく、課題も存在することを理解して、さらに深く追究する。 ・地方の情報提供をするために必要な事象は何か、既習事項から考える。	暮らしの工夫 自然災害	・山 ・火山 ・冷帯 ・台風 ・雪 ・流水 など ・養殖 ・養鶏 ・促成栽培 など ・農村 ・リゾート ・世界遺産 など ・ロードヒーティング ・縦型信号機 ・間伐 ・克灰袋 ・石垣 など ・台風 ・大雪 ・土砂崩れ ・噴火 ・梅雨 ・濃霧 ・地震 など		「火山→温泉」のように、この事象があるから、別の事象が発生するのだと、関連付けて考える。		自分が作成したプレゼンテーションをクラスの仲間と発表し合い、交流する。	
教師の指導・支援・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使用したスライドはGoogle サイトにPDFで添付し、子どもと共有する。</li> <li>○北海道地方、九州地方について、その地域の特色や地域の課題を理解している。【知・技】①</li> <li>○自然環境を中心とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。【思・判】②</li> </ul>					<p>A <b>【ヒント】</b> 自然環境（地形・気候）を中心とした考察の仕方を基にして、他の事象と関連させ、それに加えて地方の特色や課題等のメリット・デメリットも踏まえながら考察できる。そしてプレゼンテーションで表現できる。</p> <p>B パフォーマンス課題において、北海道地方もしくは九州地方の自然環境（地形・気候）を中心とした考察の仕方を基にして、他の事象（産業、観光、暮らしの工夫など）と関連付けて、多面的・多角的に考察し、プレゼンテーションで表現できる。</p> <p>C <b>【Cへのサポート】</b> 教科書 p258~265、p186~193を読み、自然環境を中心として考察し、地方の地形や気候、観光、自然災害等の情報提供を行うことができる。</p>				

# 授業実践

次 時間	授業実践1 単元デザイン の工夫	授業実践2 学びの自己調整	授業実践3 総合的な 子どもの変容
子どもの主体性を図る自己調整度合 (課題: 課程・形態)	1 : 5 : 2	3 : 8 : 8	3 : 8 : 5
子どもの姿	<p>1 九州地方の地形や気候を地形図、雨温図などの資料から読み取る。</p> <p>2 どのような自然災害が起こっていて、自然災害への対策はどのようにされているのかを調べる。</p> <p>3 九州地方の産業について特色を理解する。</p> <p>4 持続可能な社会を実現するための取組を調べまとめる。</p>	<p>地形・気候</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平野</li> <li>山</li> <li>火山</li> <li>冷帯</li> <li>温暖</li> <li>台風</li> <li>雪</li> <li>流水</li> </ul> <p>産業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酪農</li> <li>養殖</li> <li>鉄鋼</li> <li>輪作</li> <li>二毛作</li> <li>養鶏</li> <li>促成栽培</li> </ul> <p>観光</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温泉</li> <li>農村</li> <li>リゾート</li> <li>世界遺産</li> <li>レジャー</li> </ul> <p>暮らしの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロードヒーティング</li> <li>縦型信号機</li> <li>間伐</li> <li>克灰袋</li> <li>石垣</li> </ul> <p>自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>台風</li> <li>大雪</li> <li>土砂崩れ</li> <li>噴火</li> <li>梅雨</li> <li>濃霧</li> <li>地震</li> </ul> <p>地域のよさだけでなく、課題も存在することを理解して、さらに深く追究する。 地方の情報提供をするために必要な事象は何か、既習事項から考える。</p>	<p>自分が作成したプレゼンテーションを発表する。</p> <p>ループリックを参考にして、自己評価を行う。</p> <p>級友と評価用紙を渡し合い、情報を取捨選択し、プレゼンテーションを改善する。</p>
教師の指導・支援・評価	<p>1次 教科書内容の 理解を中心と した授業</p>	<p>2次 パフォーマンス課題の解決に向けた活動を中心とした授業</p>	<p>3次 交流とフィードバックを中心とした授業</p>

04

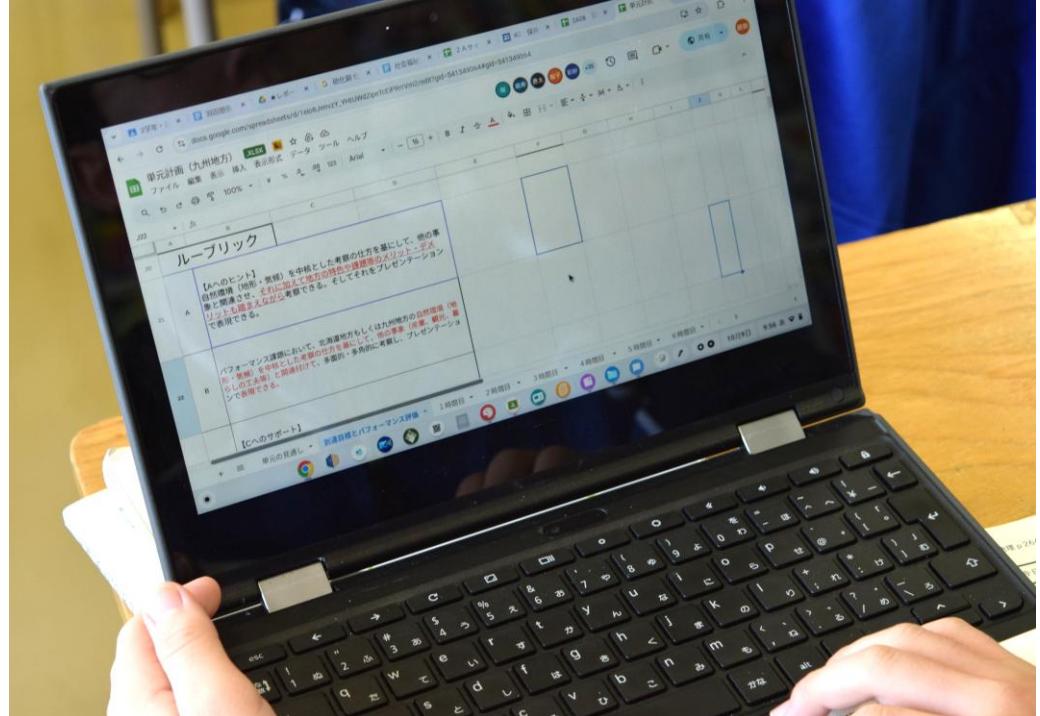
# 授業実践

## 授業実践Ⅰ

### 単元の始めに子どもとゴールを共有



### 学習計画を立てる

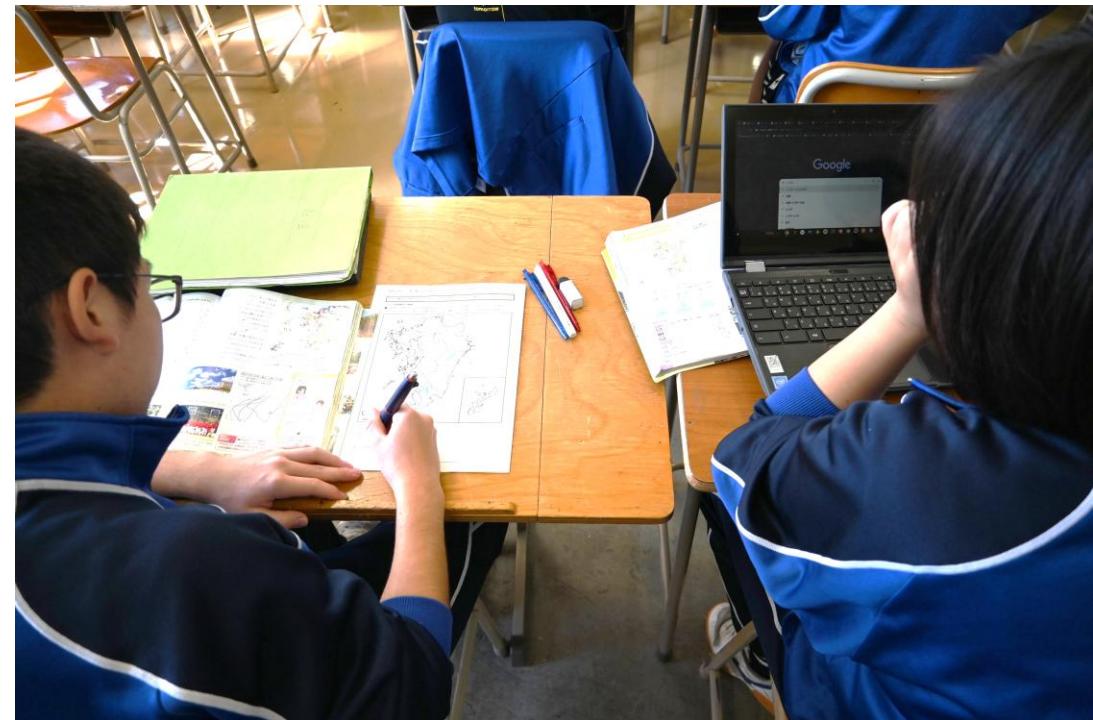


## 授業実践Ⅰ

他者参照しながら学ぶ

A 番号	B 学習計画(見通し)	C 本時で学んだこと 疑問点など (行動の振り返り)	D 次の学習に向けての改善点 (次への振り返り)
1	九州地方の地形や気候についてしっかりと知ることができるように、白地図をわかりやすく作るのと、雨温図をしっかりと読み取ることがで		0
2	地域的特色を	猪狩春樹	0
3	九州地方の気候や地形を知り、北海道との違いを知る。		0
4	九州地方の地形や気候について学びながら考えて基本的な知識を身につける。		0
5	九州地方の地形についてわかりやすくまとめ、都市の名前を再確認する。		0

ICTの積極的な活用

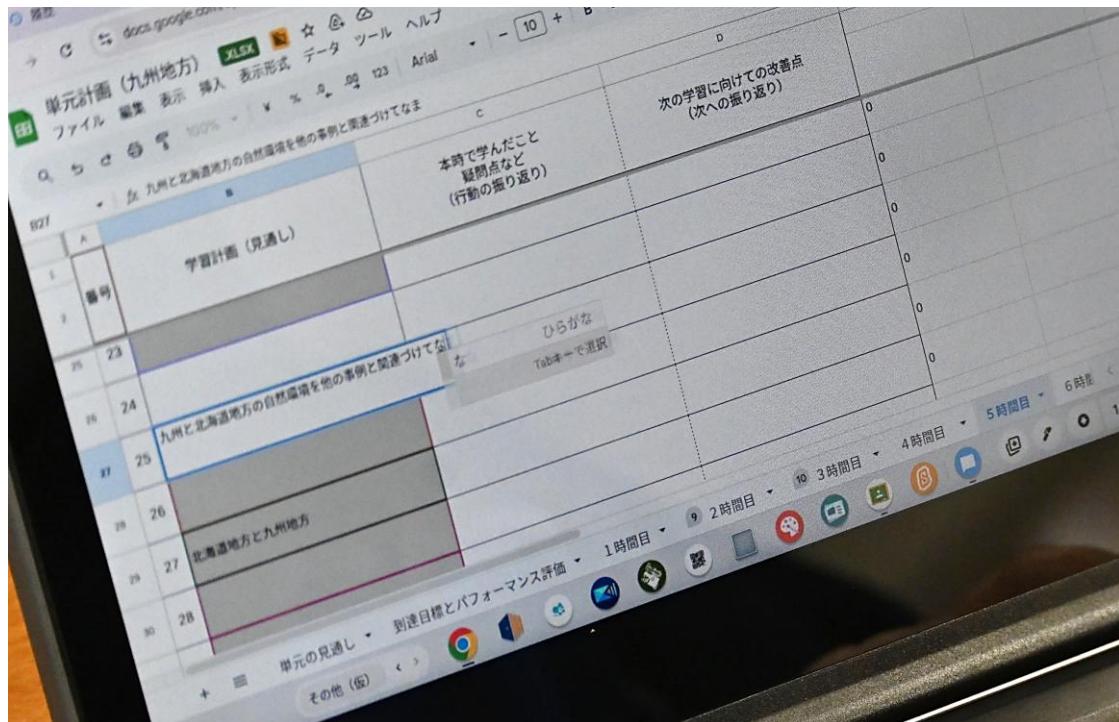


04

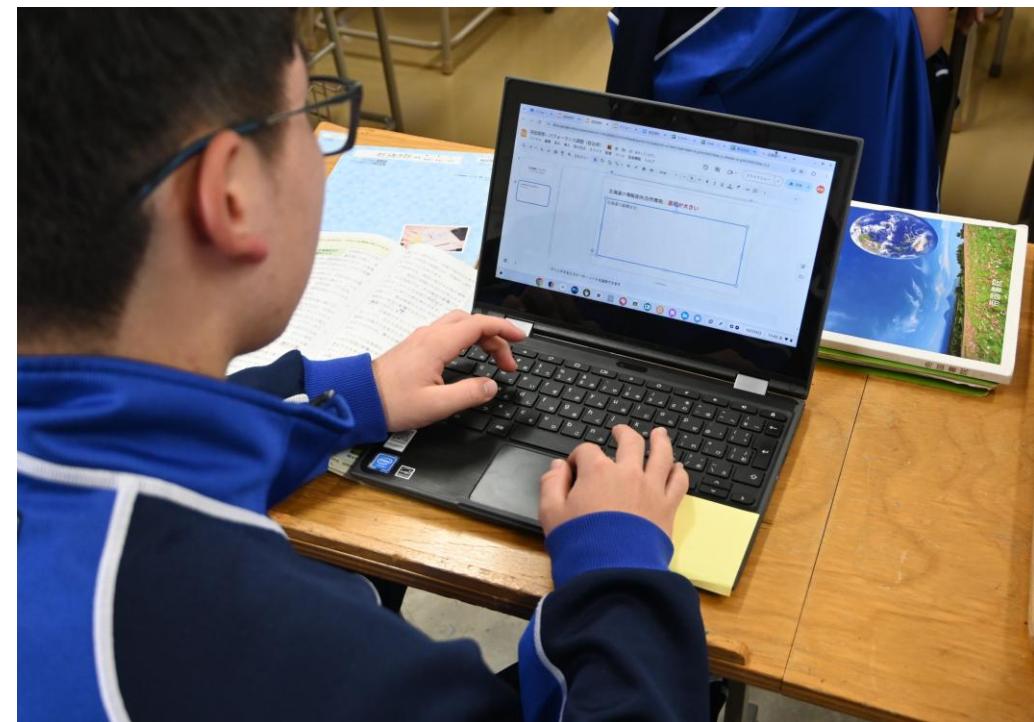
# 授業実践

## 授業実践 2

### 前時の内容を生かした学習計画



### 学習計画を意識した行動

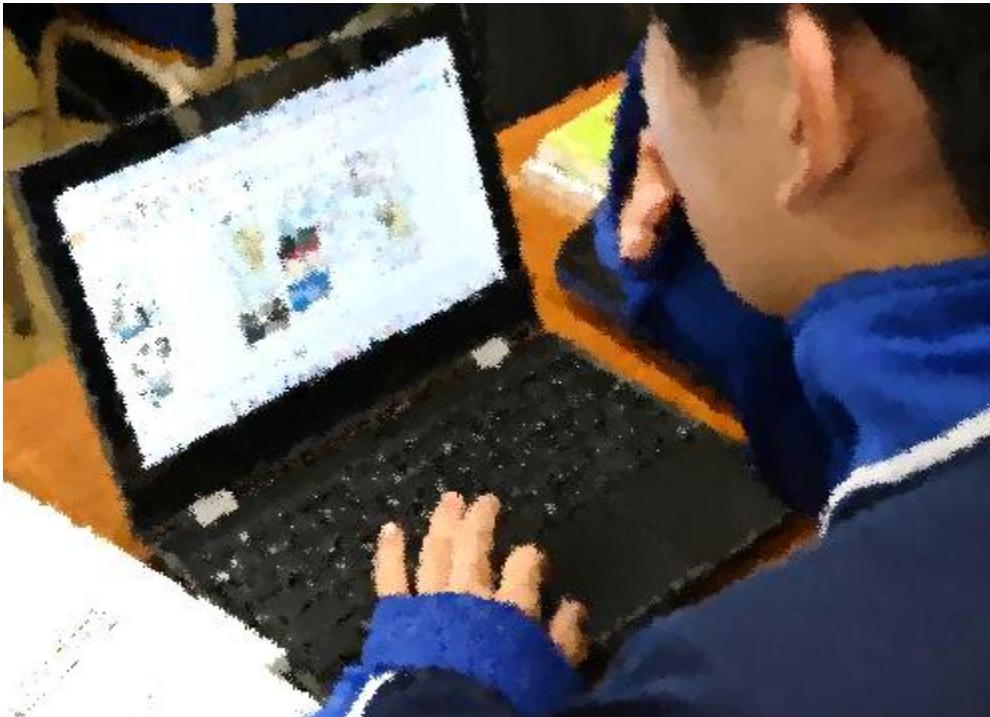


04

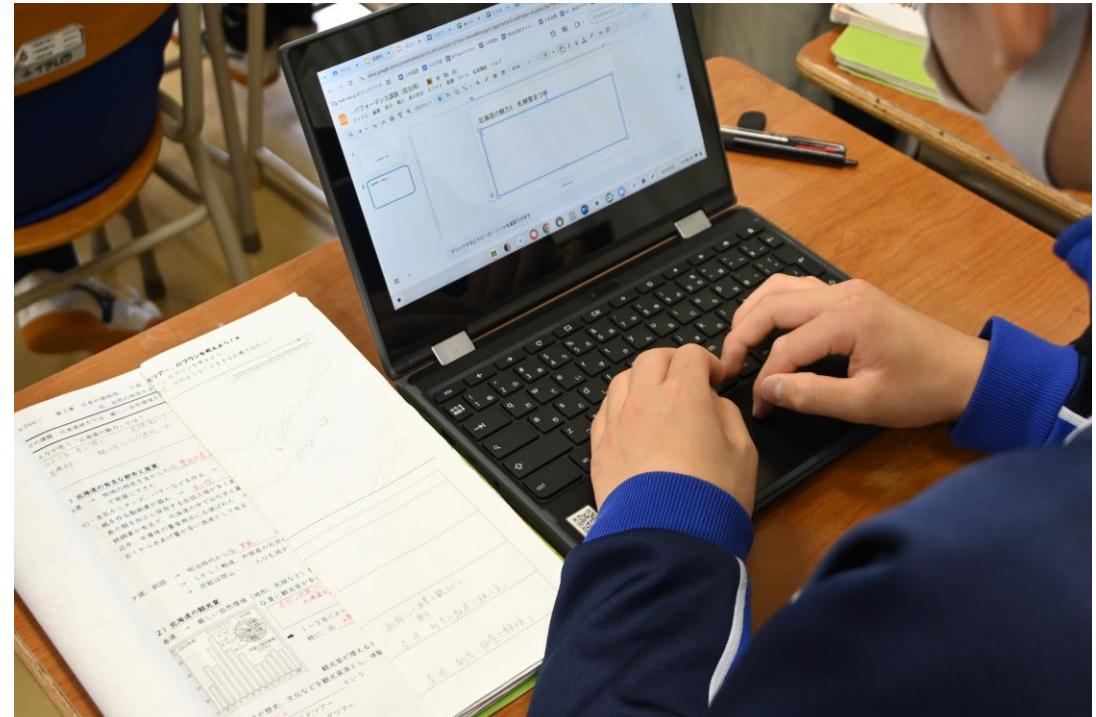
# 授業実践

## 授業実践 2

### 教材の自己選択



### 学習方法の自己決定



04

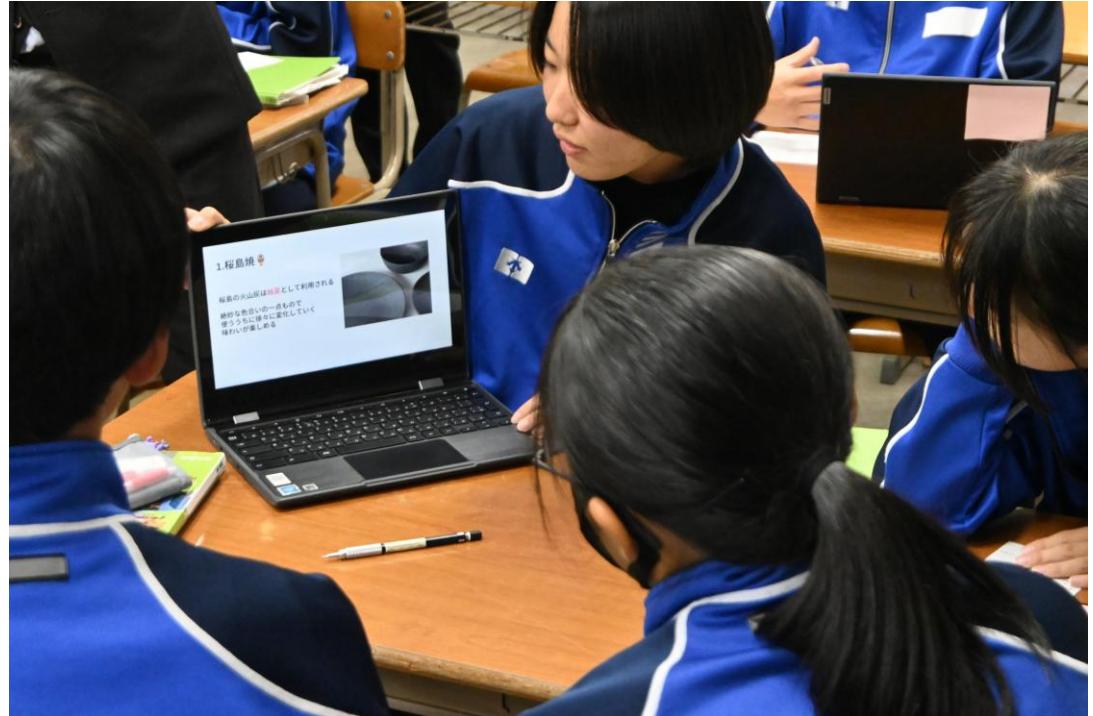
# 授業実践

## 授業実践3

### 発表と相互評価



### 発表内容の探究



子どもへの  
取材や  
アンケート

05

## 子どもへの取材

### 単元デザインの工夫に関するここと

授業の流れが分かると、今回の授業はどういう感じで進めていくのかが分かるので、自分でどの作業をすればいいのかが分かってとてもやりやすかった。



一人で集中して取り組むより、友達と相談して取り組む方が自分には合っているので、選択肢があるのがいいと思う。

05

## 子どもへの取材

### 単元デザインの工夫に関するここと

自分に合った学習の仕方が選べるので学びやすいなと思った。

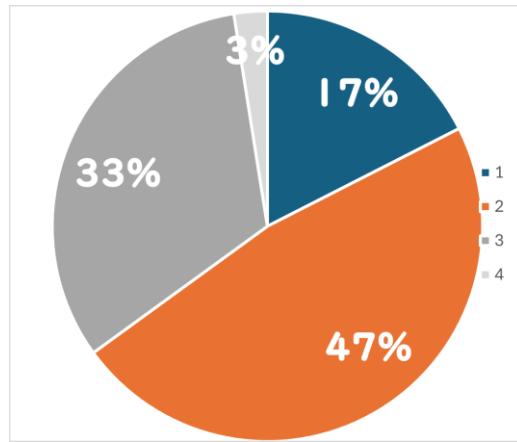
おもしろさでいいたら、自分で調べたり興味をもつたことをすぐ調べたりできるのが、今やっている「ゴールを最初に共有して自分の表現の方法を選べる学習」と「そうでない学習」の違いで、楽しい。



# 子どもへのアンケート

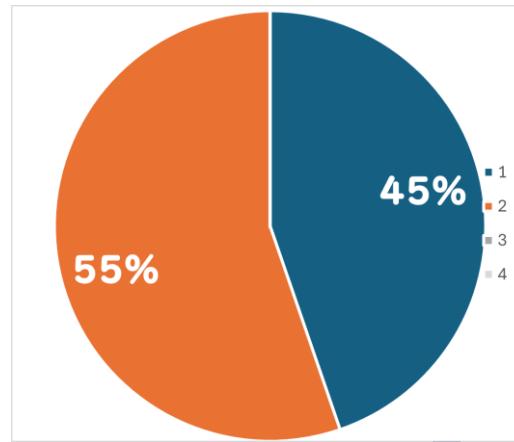
① 単元の始めに学習の目標や、これから何をどのように学んでいくのか、全体の流れをイメージすることができましたか。

⑤ タブレットは、学習計画を立てたり、調べものを作ったり、自分の考えをまとめたりする上で、役に立ちましたか。



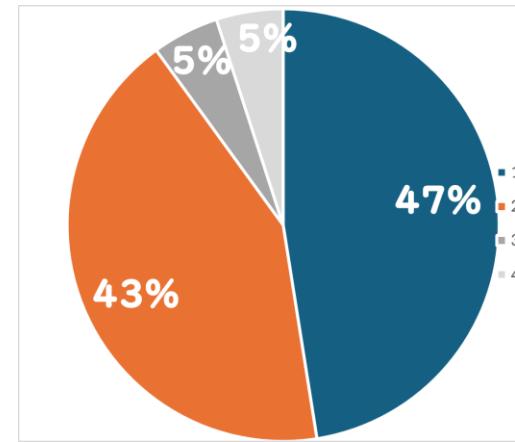
事前

肯定的回答  $64\% \rightarrow 100\%$



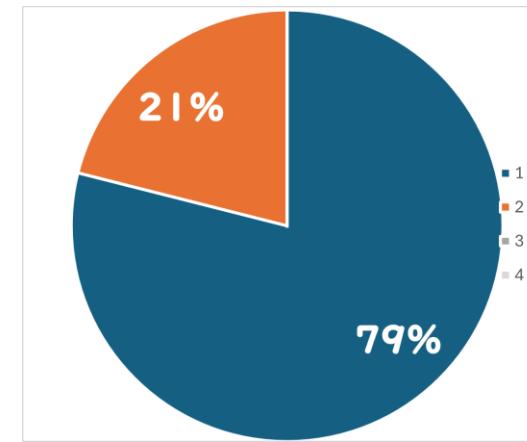
事後

1 そう思う  
2 どちらかといえばそう思う  
3 どちらかといえば思わない  
4 そう思わない



事前

肯定的回答  $90\% \rightarrow 100\%$



事後

## 学びの自己調整の工夫に関するここと



今日は割と計画通りに進めたと思う。計画とズレたときは、友達のサポートをもらいながら修正して計画通りに進められるように頑張っている。

振り返りはうまくできたときを基準にして、「今日はどうだったかな」と考えるようしている。  
書いた振り返りは次の時間に「前回こうなってしまったからこうしてみようかな」と自分を変えることに役立っている。



## 学びの自己調整の工夫に関するここと

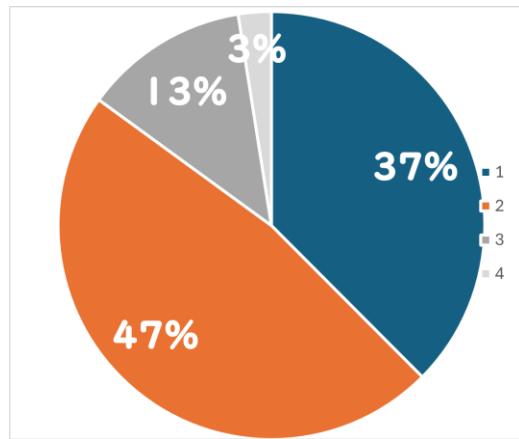
教科書や資料集、地図帳を見て調べるというよりは、タブレットで自分の知りたい情報だけ調べられるというのがやりやすい。タブレットは詳しく書かれていることが多いので、先生に聞かなかつたところも、分からなければすぐに調べられる。見返すときにも振り返りを見ながらでき、例示されたスライドも自分と比べることができたので学びやすかった。



# 子どもへのアンケート

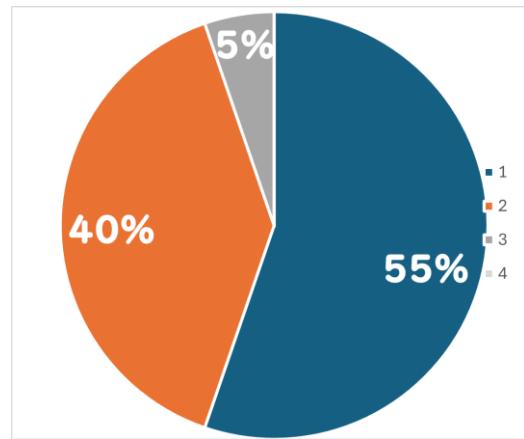
④ 分からないことや難しい問題があったとき、どうすれば解決できるか自分で考え、行動に移すことができていましたか。（例：友達に聞く、先生に相談する、本やタブレットで調べるなど）

⑦ 振り返りで考えたことをもとに、次の学習のやり方を工夫したり、新たな目標を考えたりすることにつなげることができていましたか。



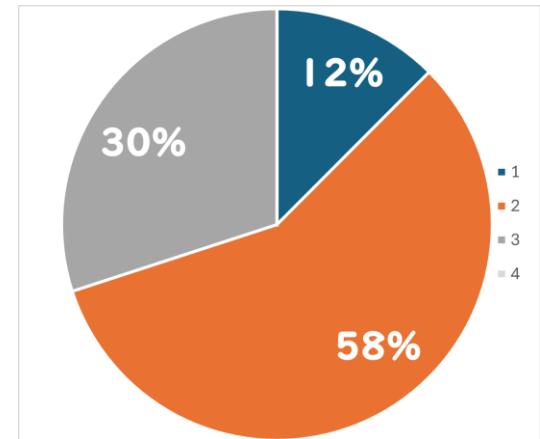
事前

肯定的回答 84%→95%



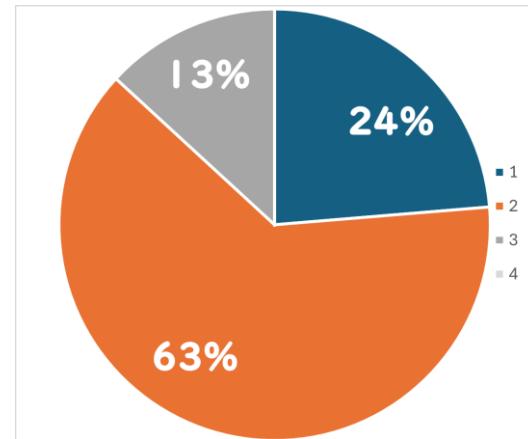
事後

■ 1 そう思う  
 ■ 2 どちらかといえばそう思う  
 ■ 3 どちらかといえば思わない  
 ■ 4 そう思わない



事前

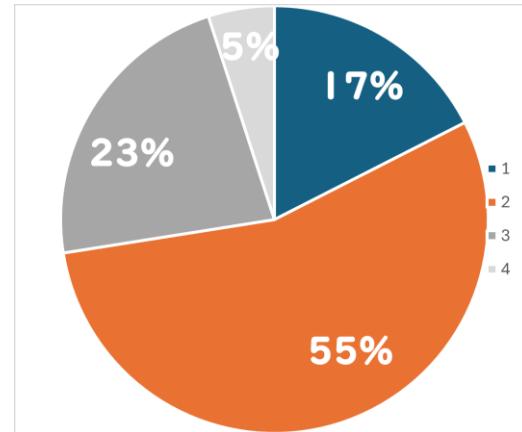
肯定的回答 70%→87%



事後

# 子どもへのアンケート

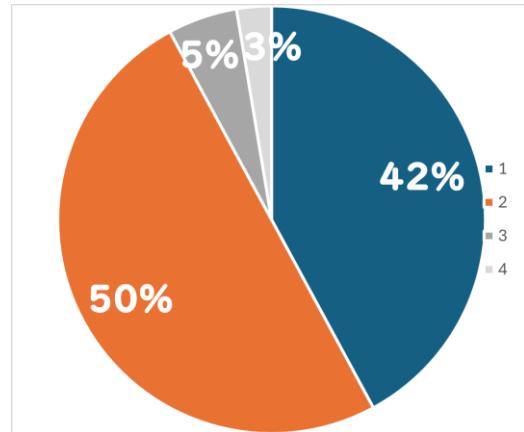
⑧ 単元の課題解決に向けて、見通しをもって粘り強く取り組むことができましたか。



事前

肯定的回答

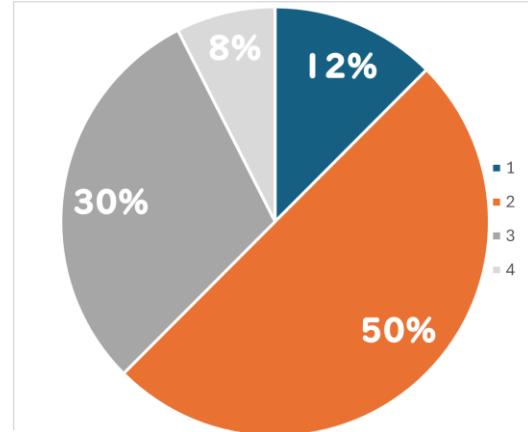
72%→92%



事後

■ そう思う  
■ どちらかといえばそう思う  
■ どちらかといえば思わない  
■ そう思わない

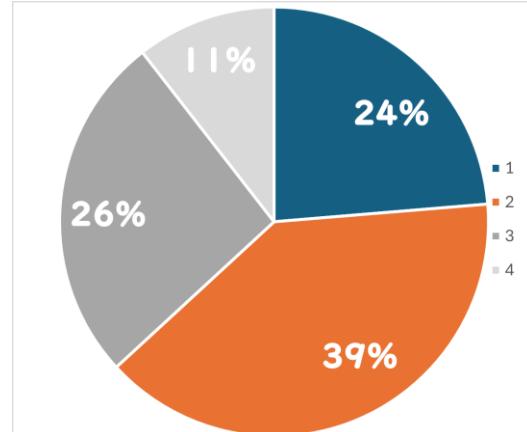
⑨ 自分の学習の進み具合を確認し、必要に応じて学習方法や計画を見直したり、家庭学習を行ったりすることができましたか。



事前

肯定的回答

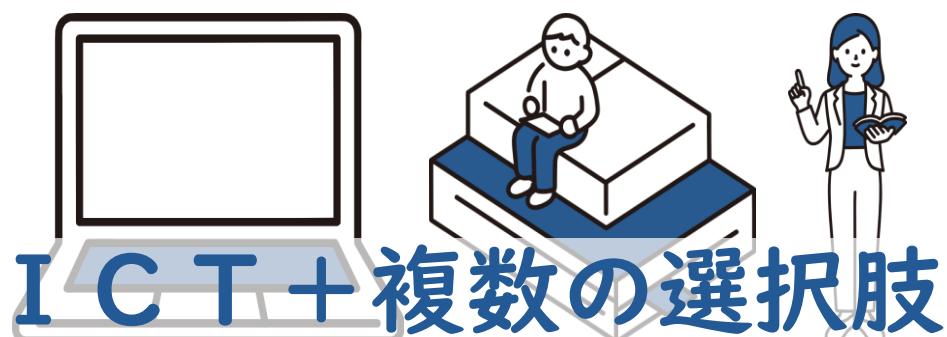
62%→63%



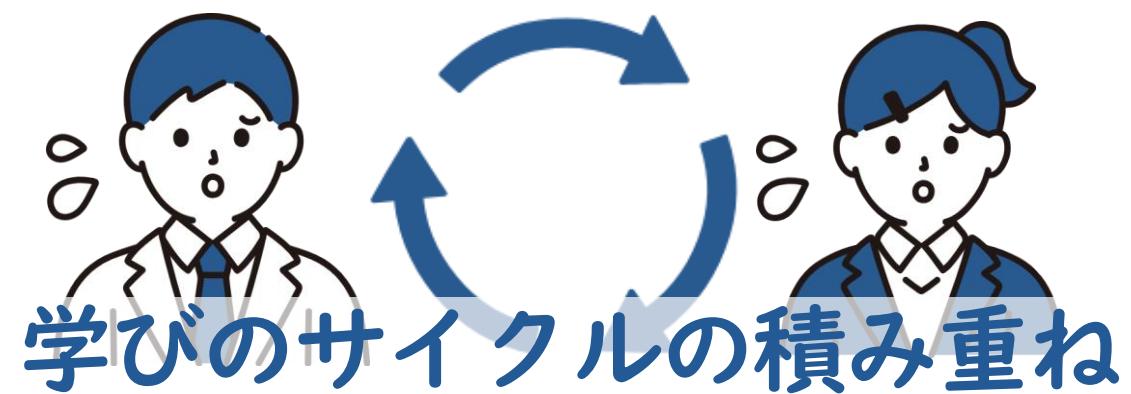
事後

# 今年度の 成果と課題

## 単元デザインの工夫に関するここと



## 学びの自己調整の工夫に関するここと



06

## 今年度の課題

単元デザインの工夫に関するここと

学びの自己調整の工夫に関するここと

課題の  
「**提示方法**」や「**幅**」  
について、学習内容を  
さらに発展させられる  
ような工夫が必要。

小学校段階から  
主体的に学びを  
調整する力  
を養う必要。

- より子どもにとって好奇心を刺激されたり、興味をもてたりするような単元デザインの工夫。
- 前時の「振り返り」が次時の「学習計画」に生かされるような子どもへの声掛けなどの工夫。

# 参考資料

- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年6月）』
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年6月）』
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）』
- 文部科学省『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』令和3年1月26日中央教育審議会
- 文部科学省『20240311「授業がこんな風に変わりました。そのために、こんな授業づくりをしてきました。」（R5アドバイザー事業オンライン学習会【第8回】）（2024年3月11日）』
- 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）』
- 北海道教育委員会『令和6年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書』
- 北海道教育研究所連盟『道研連の概要』
- OECD『The OECD Learning Compass 2030』
- 市川 伸一、篠ヶ谷圭太『学習の自己調整は日常的学習行動の中でどう促進されるのか—研究、実践、政策の動向と今後の展望—』2023
- 石井英真、鈴木秀幸（編著）『やま場をおさえる学習評価 深い学びを促す指導と評価の一体化入門』図書文化、2021年
- 奥村好美、西岡加名恵（編著）『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年
- 白井俊『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房、2020年
- 高橋純『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりと教育データの利活用』（高橋純 | note）
- 奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社、2021年
- 西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、2016年
- 西岡加名恵『資質・能力を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2016年
- 西岡加名恵、石井英真（編著）『見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』明治図書、2018年
- 西岡加名恵、石井英真（編著）『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準、2019年

## 実態交流

テーマ

「単元デザインの工夫や学びの自己調整の工夫を  
どのように行っているか。」

交流の流れ

- ・司会者の自己紹介
- ・グループ内の自己紹介
- ・テーマについて、各学校・研究所・個人での取組を交流